

令和5年度デイパーク大府事業活動報告

新型コロナウイルス感染症も2類から5類へ移行となり、少しずつ通常生活を取り戻しつつある中で当法人と致しましても、世間の流れを見て試行錯誤しながらの一年がすぎました。

新しい生活様式の中で感染予防対策を徹底しながら運営継続し、「和」を大切に長福会本来の力を発揮することができました。

公益性の発揮、質の高い福祉サービスを継続して提供し、感染予防徹底し安心して利用できる運営体制や人材の育成、「地域の皆様に愛され、頼られるデイパーク大府」を継続して取り組んだ一年でありました。

法人全体

① 施設及び体制整備

- ・ケアカルテの導入に伴い、介護用ソフトを一新いたしました。これによって、介護職員の入力作業軽減が図られ、業務改善に一翼を担えると考えております。
- ・安全衛生・感染予防対策委員会をほぼ毎週開催、職員体調 WEB アンケートを期間中毎日実施、感染予防啓発を促し、まん延予防に努めました。
- ・現在7名の障がい者の方が職員として勤務し、障がい者雇用率（5.85%）充足を達成したため、令和6年度も引き続き奨励金の受給法人となります。

- ・利用者支援
- ・毎月の行事食や嗜好アセスメントも定着し、食事提供改善に取り組んでいます。
- ・機器を導入し、飛沫対策を徹底し、音楽リハビリを実施してきました。
- ・面会については対面による面会を積極的に活用しました。
- ・年間100回程度の買い物支援、移動販売等で買い物を楽しんでいただきました。

② 地域貢献

- ・利用者と共同し法人全体の防災訓練を実施しました。
- ・障がい者就職トレーニングセンターと連携し、職場相談支援行いました。
- ・市の委託事業とは別に独自契約の配食サービスにおいて、14名、延べ5600食を夕食宅配と合わせ安否確認として実施しています。
- ・感染予防対策徹底し、会議室を地域自治会や子供会の会議等にご利用いただいております。

ケアハウス事業活動報告（案）

ケアハウス 利用定員 30名
令和6年4月1日現在 29名
令和5年度 新規入所者 2名 退去者 3名

施設開所から20年以上が過ぎ、開所時から入居者されている方が2名お見えになります。その他に10年以上の長期の方も多数入居されておりますが、毎年4名前後の方は入退去で入れ替わり、全体的に新鮮な雰囲気の様変わりしております。

長期に利用されている利用者も多く、月日と共に介護認定入居者も増えてきて、薬の管理に注意が必要な人や訪問介護等の介護サービスを受けて、ケアハウスの生活が成り立っているご入居者様も出てきています。

入居者様の生活調査として、定期的に管理栄養士と担当者による入居者様との面談を行っております。今回は内容を一部変更して、嗜好に重点を置いた事前アンケート調査を実施致しました。その中で味付けや調理方法等に叱咤激励も受け、厨房職員との議論も重ねてカロリーや塩分量等入居者様の健康を保つ上で基本的なベースは維持しつつ、メニューの見直しや調理方法等の変更を行い、生活向上に向けて尽力させて頂いております。

入居者の生活向上の応援として、市内の医療機関や公共施設、共和駅、大府駅等ニーズに合わせて、無料送迎サービスを引き続き行ってきました。

毎月定期的に行っている買い物ツアーについて、生きがい支援活動の一環としてだけでなく、昨年よりコロナウイルス感染症も5類に分類されましたが、引き続き感染予防対策としての側面も意識して行ってきました。食糧品を含めた日用雑貨品等はケアハウスの生活する上で、必要不可欠なものであります。1回の参加者は7名前後で、入居者の希望を伺いながらお店を選択、外出することにより社会参加活動の他、気分転換も図れたのではないかと考えております。

買い物ツアーに参加されない方へは、定期的に来所される訪問販売車に対して、入居者様に購入リクエストを伺い業者との間を取り持って、希望の商品が安心して購入できるように支援を行ってきました。

11月に地域住民の方にも参加して頂き、入居者様との協働による防災訓練を実施しました。

訪問歯科医院の協力を受け、2月に希望するご入居者様に無料定期歯科検診を実施するとともに、継続的な治療が必要なご入居者様には、検診内容の説明をして頂きました。

その他生きがい活動と致しまして、お花見会、クリスマス会等を行いました。感染予防対策に配慮しながら新しいスタイルでのレクリエーションも4年目を迎え、5月には参加希望者を募ってイチゴ狩り、また9月には法人全体の秋祭りも開催となり、ケアハウスでも大勢の方が参加されて楽しいひと時を過ごして頂くことが出来たのではないかと感じております。これからもご入居者様にご協力を賜りながら、潤いのある生活を送って頂けるよう支援させていただきます。

第1 老人デイサービスセンター事業活動報告 利用定員 30名

延べ利用者人数 5,751名 新規利用人数 27名 利用中止人数 25名
稼働率 61.7% (前年度稼働率 65.4%)

	稼働日数	延べ人数	人員数	平均利用者数	平均要介護度	稼働率
4月	26日	501名	54名	19.3名	2.6	66.8%
5月	27日	550名	56名	21.2名	2.5	67.9%
6月	26日	503名	52名	19.3名	2.5	64.5%
7月	26日	487名	53名	17.9名	2.6	62.4%
8月	26日	483名	53名	18.6名	2.7	61.9%
9月	25日	475名	55名	18.3名	2.7	63.3%
10月	27日	542名	56名	20.8名	2.6	66.9%
11月	26日	492名	54名	18.9名	2.7	63.1%
12月	26日	486名	53名	18.7名	2.7	62.3%
1月	24日	398名	53名	16名	2.7	55.3%
2月	25日	406名	53名	16.9名	2.7	54.1%
3月	26日	441名	51名	16.3名	2.7	54.4%

昨年度は生活相談員、介護職員・看護職員の役職者も一新され、新たなスタートとなりました。今まで実施してきたことを見直す機会でもあり、良い部分は残し、改善点を洗い出し、利用者にとって快適に楽しく過ごしていただけるための環境づくりをおこないました。

【昨年度の稼働について】

4月から11月にかけては、維持をしながら稼働をすることができましたが、12月からは体調不良で入院される方、自宅での生活が困難となる方が増大し、12月から3月の期間で13名の利用者が中止となり、稼働を大きく落とす結果となりました。

ケアマネージャーと話す機会を増やし、空き状況や事業所の売りを上手に伝えながら、次年度の目標稼働率を達成できるよう働きかけを行います。

【昨年度の取り組みについて】

業務の見直しを行うことで、利用者とかかわる時間を増やすことを目的に、時間のかかる業務や重複作業がある業務を工夫・方法を見直し、業務改善を進めました。結果、午前中、入浴待ちをしている方にもレクを提供できるようになりました。

パソコン作業が苦手なスタッフにもパソコンに触れる機会を徐々に増やし、全員が同じレベルで業務が行えるよう指導にあたりました。また、会議の時間を利用し、介護技術研修を実施し、介護技術の習得や方法の確認や統一ができるよう実施しました。

第2 デイサービス事業活動報告 利用定員 30名

延べ利用者数 6,793名
稼働率 73.1% (前年度稼働率 65.1%)

	稼働日数	延べ人数	人員数	平均利用者数	稼働率
4月	25日	516名	53名	20.6名	68.8%
5月	27日	562名	53名	20.8名	69.4%
6月	26日	544名	55名	20.9名	69.7%

7月	26日	534名	56名	20.5名	68.5%
8月	27日	538名	54名	19.9名	66.4%
9月	26日	573名	54名	22.0名	73.5%
10月	26日	582名	56名	22.4名	74.6%
11月	26日	593名	56名	22.8名	76.0%
12月	26日	583名	53名	22.4名	74.7%
1月	24日	593名	58名	24.7名	82.4%
2月	25日	570名	57名	22.8名	76.0%
3月	26日	605名	56名	23.3名	77.6%
合計	310日	6,793名	661名	21.9名	73.1%

昨年度は、前年度に比べ稼働率8%増加致しました。9月頃より利用者様の一人当たりの利用回数が増えたことにより稼働率が一旦上昇したものの、実人員の増加がなかったこともあり目標値である83%には届きませんでした。1月に入り、新規利用者の増加と入院中の方が戻ってきたこともあり、稼働率が一気に上がった状況でしたが2月に入り利用頻度の高い方の利用中止が重なったことで6%減少となりました。その後、若干の改善はあるも、新規利用者獲得ができず、77%台の水準のまま継続することとなりました。

《課題・分析》

昨年度より利用者人員が少し増加している状況ではありますが、大幅に稼働率が上げれるほどの新規利用者獲得ができず、関連機関への営業努力不足及びPRの仕方などに問題があったと考えております。また、稼働する曜日にも高低が激しく、稼働の少ない曜日にイベントを開催し稼働率を上げる工夫を致します。

事業所内でも利用者獲得に向けた会議を行い、ご利用者だけではなく、ご家族様やケアマネージャー様にも来所していただき、施設での様子を発信していくことで利用者獲得を目指します。また、利用者様の少ない曜日に様々なイベントを企画し、1か月に1回は行えるよう努力していきます。

今後も、営業の仕方、PRの仕方を考え、実践していけるよう努力し、利用者拡大に全力で努めたいと考えております。

短期入所事業所事業活動報告 定員 30名

延べ利用者数 9,576名 稼働率 87.2%
(前年度 延べ利用者数 9,010名 稼働率 82.3%)

	延べ人数	利用者数(新規)	平均利用者数	稼働率
4月	753	55名(3)	25.1	83.7%
5月	788	61名(5)	25.4	84.7%
6月	815	61名(8)	27.1	90.6%
7月	791	58名(4)	25.5	85.5%
8月	860	63名(4)	27.7	92.4%
9月	786	63名(3)	26.2	87.3%
10月	812	64名(7)	26.1	87.3%
11月	817	64名(5)	27.2	90.8%
12月	789	61名(4)	25.4	84.8%
1月	811	55名(3)	27.0	87.2%
2月	784	57名(5)	27.0	90.1%
3月	770	54名(2)	24.8	82.8%

《昨年度の稼働について》

昨年度も新規利用者の受入れを迅速に対応し、ケアマネジャーと連携を図り、稼働率が一昨年を上回ることが出来ましたが、昨年7月 新型コロナウイルス感染者が8名発生し、内4名の利用者様は施設内にて対応し稼働率(8.5%)減少となりました。今後も感染対策の徹底を継続して参ります。

《昨年度の取り組みについて》

感染予防対策で、職員は毎日出勤時の検温、定期的な抗原キット検査を行いながら、利用者様・職員の体調管理に留意し、体調不良を早期発見できるように実施致しました。整理整頓を常に心がけ環境を整えることでの清潔保持できるよう支援し、夜勤帯時間の短縮を行い日勤数を増やすことで、利用者様と寄り添える時間を増やせるよう、業務改善を進めて参りました。今後も利用者様が快適で安心安全に生活できるよう援助して参ります。

計画目標 稼働率 90.0% 年間 9,855 名

居宅介護支援事業所事業報告

居宅介護支援事業所 定数 5 名

・年間延べ利用者数 1,992 名 (前年度比 16% 増)。要介護 1,452 名、要支援・介護予防ケアマネジメント対象者 540 名を受け入れました。要支援・介護予防マネジメント対象者は、受け入れ目標値を超え 180 名増加となっています。地域包括支援センターからの委託依頼をうけ安定したケース受け入れができています。

・地域の困難事例への支援、入退院時の医療との連携、地域包括支援センターや行政など他職種との連携を図り支援したことにより、新規依頼相談者は年間 58 件ありました。

・介護支援専門員 5 名 (内、主任介護支援専門員 2 名) を配置し特定事業所 (加算Ⅱ) の加算を維持し、他の法人が運営する指定居宅介護支援事業者 4 事業所と共同で事例検討会の研修を年 1 回 (11 月) 開催、事業所内伝達会議を週 1 回定期的に開催し介護支援専門員の質の向上を図りました。

・知多北部広域連合及び地域包括支援センター等主催の研修に参加しました。また、地域包括支援センター主催の自立支援地域ケア会議への事例提供等行い参加しました。

・大府市介護支援専門員連絡協議会の会員として目的に賛同協力し、大府市主任ケアマネの会 (ZOOM 会議) や知多北部広域介護支援専門員連絡協議会 (ZOOM 会議) へ参加し情報交換を行いました。

・知多北部広域連合より委託を受け介護保険認定調査を行いました。調査員として登録しているため大府市役所地域福祉課や他府県等から依頼があり認定調査を行いました。

・愛知県介護支援専門員実務研修の実習性を受け入れ、主任介護支援専門員が対応しまし

た。指導方法等習得に努め事業所内のケアマネジャーの資質向上に努めました。

・地域包括ケアシステムの構築に向けた法人全体の取り組みと合わせ、地域連携の入り口としての役割を担えるよう支援いたしました。

・法人内の業務の効率化に向け、「ケアカルテ」が導入調整されていますが、居宅では、「福祉の森FUTURE」の利用を継続しています。

・訪問及び面談時感染予防に努め、ご本人様、お家族様の支援を行いました。今後も感染予防等に努め支援いたします。

【目標数値】 要介護者 年間 1,450名 —— 要支援者 年間 360名

特別養護老人ホーム事業活動報告

利用定員 80名

新規入居者数 22名 退居者数 21名

稼働率 89.6% (前年度稼働率 90.8%)

令和5年度新規入居者は22名、退居者数は21名でした。そのうち7割の方を当施設にて看取らせて頂きました。

昨年度も新型コロナウイルスやインフルエンザ感染が職員や入居者様に感染しその対応に追われました。稼働率も年間では89.6%、昨年と比較すると30万円の減収でした。例年と比べて退去者は少なかったものの入院件数が1.5倍以上あり、空床期間が増えていたことに原因があると考えます。平均の入院期間は21.3日です。

具体的には入院件数40件、内半数の20件が救急搬送で対応致しました。新型コロナウイルスやインフルエンザ感染で入院された方は5名。その後施設に戻れず転院された方や身体のレベル低下によりそのまま看取らせていただいた方もいらっしゃいました。それ以外の症状としては誤嚥性肺炎、尿路感染、尿管結石、胆管結石などの入院が多く、回復されても病気が治癒することは困難なためその後も入退院を繰り返す方が多くありました。

終身施設としての役割として嘱託医やご家族様とご本人様の意向も考慮しながら当施設で穏やかに暮らしていただけるよう今後も多職種にて連携してまいります。

今現在もご家族様と入居者様との直接的な面会は、外部からお越しいただくご家族様の体温を計測し、マスク着用で面会していただく又はwebでの面会を徹底しております。ご高齢の為、身体にレベル低下のある方や看取り対応の方についてはフェイスシールドを着用していただき、居室にて面会していただいております。

今後も個別のケアを目標にお寿司の出前やユニット内でのレクリエーション、体操やリハビリ等を実施し、調理レクやカラオケ等も行っています。ご家族様にはフロア内のご様子を報告書として郵送させていただき、逐次ご報告をさせていただいております。又、昨年度より新システムのケアカルテを導入いたしました。現場においてもスムーズに現行のシステムから新システムに移行出来るようe-ラーニングや研修などで推進してまいります。6月・7月と並行運用し8月には完全移行できるように尽力いたします。

職員一同、今後も入居者様が少しでも安心して穏やかに過ごしていただけるように支援させていただきます。

以上

グループホームデイパーク大府事業報告

定員数 2ユニット 18名

【令和5年度実績】

- ・月平均稼働率 ⇒ 93.8% (計画目標 95.0%)
- ・入居者年間延べ ⇒ 6,179名 (計画目標 6,258名)
- ・令和5年度もコロナウイルスによる感染対策を実施してきました。5月から5類に移行したこともあり面会や外出の制限緩和に向けて検討しておりましたが、職員のコロナ陽性が、8月・1名、12月3名、入居者様が12月に1名の陽性判明報告がありました。その後、コロナの陽性報告はありませんが、ご家族の発熱等での職員の休養で勤務変更を実施しながら業務に努めて参りました。
ご家族様への面会の制限緩和（リモート面会から居室での直接面会）や入居者様の外出制限緩和等、11月頃より実施していきました。法人での秋祭り開催や入居者様の外出支援（公園散策や喫茶店へ）等、感染予防対策を実施しながら努めて参りました。年明けより、入居者様のご家族との面会やご家族との外出の機会も徐々に増えてきました。
- ・年間を通してのイベントやレクリエーションもコロナ状況の中、前年度同様に季節を感じて頂く時期はドライブ見学の外出支援、フロア内でのイベントレクを感染対策徹底した企画をもとに実施しております。年明けより慰問レクなどの外部からの訪問レク団体様がグループホーム来られイベント開催を実施しております。
- ・入居者様の残存機能の低下防止を目的とした毎日の体操、個々の生活の中での役割（部屋掃除・床掃除・ごみ捨て・お花の水やり、洗濯干したたみ等）、近所周辺のお散歩、外での買い物等を実施して日々の活動を実施しております。
- ・運営推進会議は奇数月（5・7・9・11・1・3月）に実施しています。
今年度は対面での実施となっております。（グループホームにて開催）
（第3者評価機関による令和5年度外部評価は軽減要件適用のため書面提出で実施）
- ・令和5年度の入居者様の入退居状況
新規入居3名（7月2名、10月1名）
退居者2名（9月1名、12月1名）※特別養護老人ホーム（当法人）への入居

【入居者状況】 ※令和6年3月31日現在

平均年齢： 1階 85.6歳 2階 84.3歳
平均介護度： 1階 2.3 2階 2.1

以上

